

製品名: シナプトタグミン 1/2 (リン酸化 Thr202/199) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05506

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

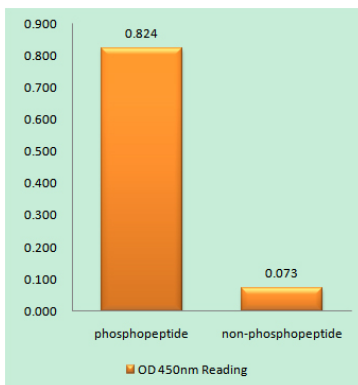
遺伝子名	SYT1/SYT2
別名	SYT1; SVP65; SYT; Synaptotagmin-1; Synaptotagmin I; SytI; p65; SYT2; Synaptotagmin-2; Synaptotagmin II; SytII
遺伝子 ID	6857/127833
SwissProt ID	P21579/Q8N9I0
免疫原	抗血清は、Thr202 のリン酸化部位周辺のヒトシナプトタグミン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 176-225

背景

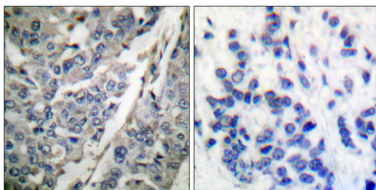
シナプトタグミンはシナプス小胞の膜貫通タンパク質であり、小胞輸送およびエキソサイトーシスの過程において Ca^{2+} センサーとして機能すると考えられています。シナプトタグミン-1 へのカルシウム結合は、シナプスにおける神経伝達物質放出の誘発に関与しています (Fernandez-Chacon et al., 2001 [PubMed 11242035])。[OMIM 提供、2010年7月],補因子: サブユニットあたり3個のカルシウムイオンを結合します。イオンは C2 ドメインに結合します。ドメイン: 最初の C2 ドメインは、 Ca^{2+} 依存性のリン脂質結合を媒介します。ドメイン: 2 番目の C2 ドメインは、SV2A および STN2 との相互作用を媒介します。機能: シナプスの活性領域におけるシナプス小胞輸送中の膜相互作用において、調節的な役割を果たす可能性があります。酸性リン脂質に特異的に結合するが、その結合には酸性ヘッドグループとジアシル骨格の両方が必要となる。シナプトタグミンと活性化プロテインキナーゼ C の推定受容体との間の Ca^{2+} 依存的な相互作用も報告されている。 Ca^{2+} 非依存的に少なくとも3つの追加タンパク質 (ニューレキシン、シンタキシン、AP2) に結合することができる。類似性: シナプトタグミンファミリーに属する。類似性: 2つの C2 ドメインを含む。細胞内局在: シナプス小胞およびクロマフィン顆粒。サブユニット: ホモ四量体 (推定)。SCAMP5、STN2、SV2A、SV2B、SV2C、RIMS1 と相互作用する。SV2B、シンタキシン1、SNAP25 と複合体を形成する。

研究分野

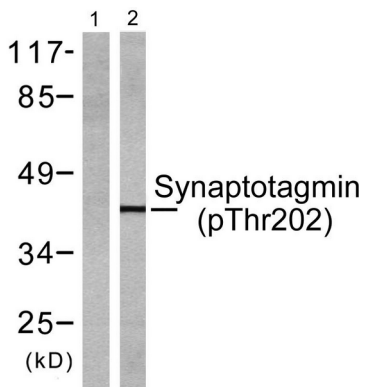
画像データ



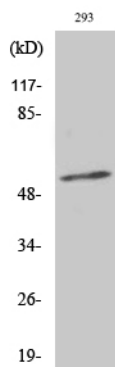
シナプトタグミン (リン酸化 Thr202) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



シナプトタグミン (リン酸化 Thr202) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40nM 30 μ L 処理した 293 細胞ライセートの、シナプトタグミン (リン酸化 Thr202) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。左のレーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化シナプトタグミン 1/2 (T202/199) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析